

浜松ホトニクス製C12880MAを分光ユニットとした公開天文台等での教育利用向け分光器の開発

○竹内 彰継¹ 古都 浩朗² (1.米子高専 2.松江星の会)

浜松ホトニクス製C12880MAを分光ユニットとし、公開天文台等での教育利用を強く意識した分光器を開発した。C12880MAは工場出荷時に正確に波長較正を行っているため、本分光器では波長較正は不要である。さらに、透明度良好時にベガのスペクトルを多数撮像して得た波長感度補正関数を記憶させているため、簡易的に波長感度補正を行ったスペクトルと有効温度が表示される。そして、そのスペクトルを付属のマイコンディスプレイに表示させれば、天体観望会等で科学的説明を行うことが極めて容易となる（図参照）。本分光器は、スリットビューアのカメラやマイコンディスプレイを含めても645gと極めて軽量であり、小型望遠鏡にも問題なく装着できる。波長分解能は $R=200$ とやや低目だが、恒星のスペクトルの概形を見るには十分である。さらに、本分光器の材料費は（2026年5月現在）11万円程度であり、従来機と比較すると非常に格安である。本分光器は公開天文台等で開催される天体観望会で威力を発揮すると考えられる。

